

# 2020年3月期 第2四半期 決算説明資料

2019年11月

**日本ロジテム**

証券コード: 9060

URL: <http://www.logitem.co.jp>





- 1. 2020年3月期 第2四半期決算の実績**
- 2. 2020年3月期 通期の見通し**
- 3. 今後の取り組み**



- 1. 2020年3月期 第2四半期決算の実績**
2. 2020年3月期 通期の見通し
3. 今後の取り組み



# 2020年3月期 第2四半期決算のポイント

## 〈決算〉 国内の業績が向上し、営業収益は8.2%増収、 営業利益は5億円超の増益(前年同期比)

- ・ 営業収益は国内の営業拡大により8.2%の増収
- ・ 利益面では主要事業の利益率が向上、販売費及び一般管理費の減少により増益

## 〈国内〉 通販関連の得意先との取引が拡大、業績は回復基調に

- ・ 通販関連の得意先との取引深耕等により取扱量が増加
- ・ 倉庫内作業の効率化が進み、センター事業の利益率が向上
- ・ 新規得意先の獲得等により新たな拠点を拡充

## 〈海外〉 ベトナムの体制整備、国際陸上輸送事業の拡大に注力

- ・ ベトナムにおいて組織再編後の体制整備が進捗
- ・ ベトナムの業績は荷動きの低下、競争の激化により足踏み
- ・ インドシナ半島地域における国際陸上輸送事業の拡大に注力



# 2020年3月期 第2四半期決算の概要

売上は前期比8.2%増加、営業利益は5億円超増加

(単位：百万円)

	実績				予想	
	19/3期 上期	20/3期 上期	前年 増減	前年 同期比	20/3期 通期	通期予想 進捗
営業収益	23,966	<b>25,930</b>	+1,964	108.2%	52,500	49.4%
営業利益 (同利益率)	△17 (-)	<b>502</b> (1.9%)	+520	-	800	62.8%
経常利益 (同利益率)	17 (0.1%)	<b>516</b> (2.0%)	+499	-	700	73.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (同利益率)	△49 (-)	<b>202</b> (0.8%)	+252	-	250	81.1%

20/3期通期予想は19年5月15日発表数値



# 事業の種類別セグメント業績

## センター事業の業績が拡大、すべての事業で増収増益

### セグメント別売上

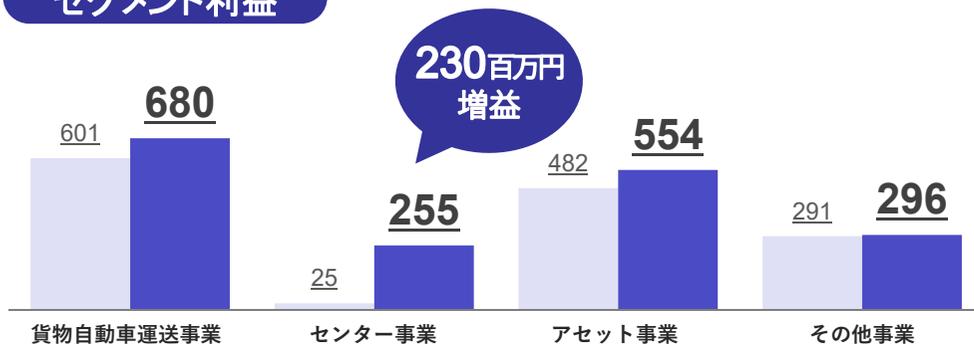
※ ( ) は売上構成比

(単位：百万円)

■ 19/3期上期 ■ 20/3期上期



### セグメント利益



### ■ 貨物自動車運送事業 6.1%増収/13.2%増益

- ・ 配送エリアの拡大等により、輸送量が増加
- ・ 料金改定や自社車両の配送効率向上により利益率が上昇

### ■ センター事業 19.9%増収/901.3%増益

- ・ 前期に開設した拠点を中心に通販関連の得意先の取り扱いが伸長
- ・ 作業習熟度の向上、自動化設備の導入等により倉庫内作業の効率化が進展

### ■ アセット事業 4.6%増収/15.0%増益

- ・ 前期に開設した拠点を中心に通販関連の得意先の保管面積が拡大
- ・ 既存拠点への得意先誘致が進捗し倉庫稼働率が高位で推移

### ■ その他事業 2.5%増収/1.6%増益

- ・ 業務請負事業が堅調に推移
- ・ ベトナムにおいて大型商業施設向け什器を販売



# 所在地別の営業収益

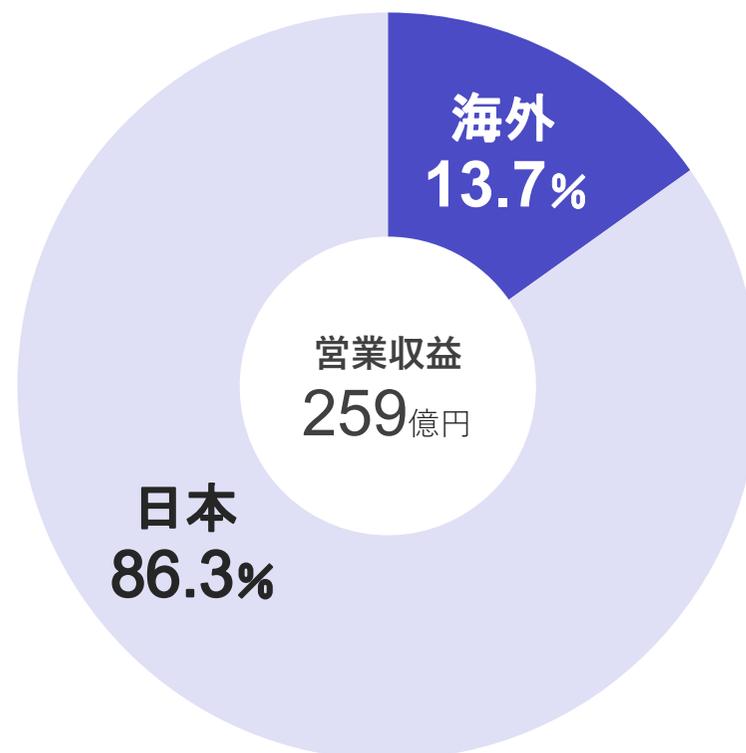
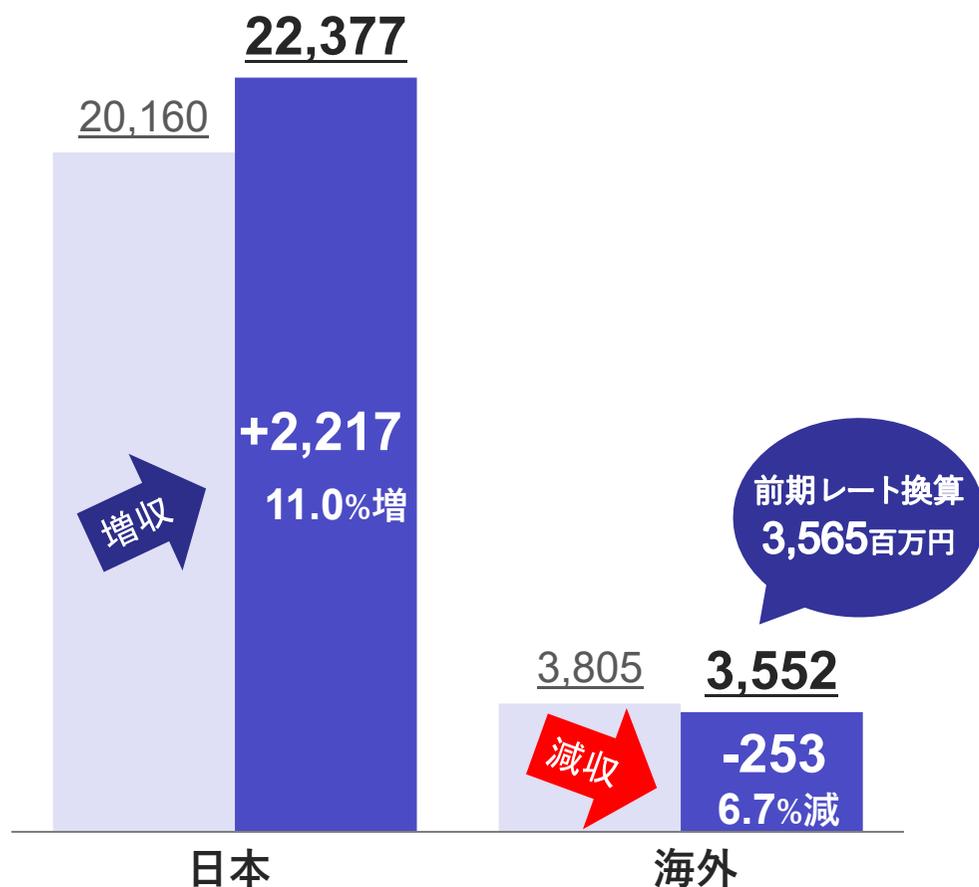
国内の売上が増加し、構成比は86.3%に拡大

所在地別売上

(単位：百万円)

■ 19/3期上期 ■ 20/3期上期

売上構成比



(海外：タイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア、中華圏)

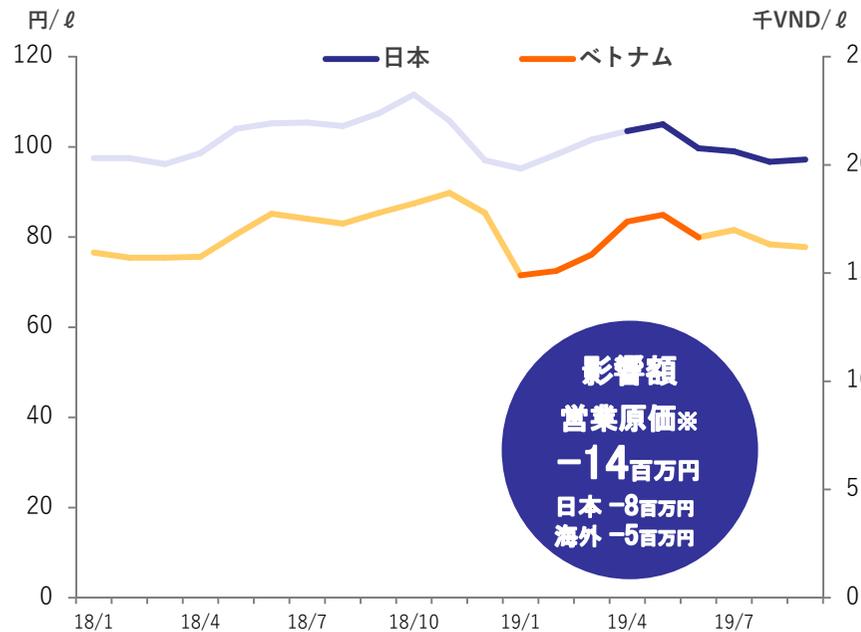


# 燃料価格、為替の変動による影響額

## 燃料価格および為替の変動による影響は軽微

### 燃料価格の推移

軽油の平均購入単価



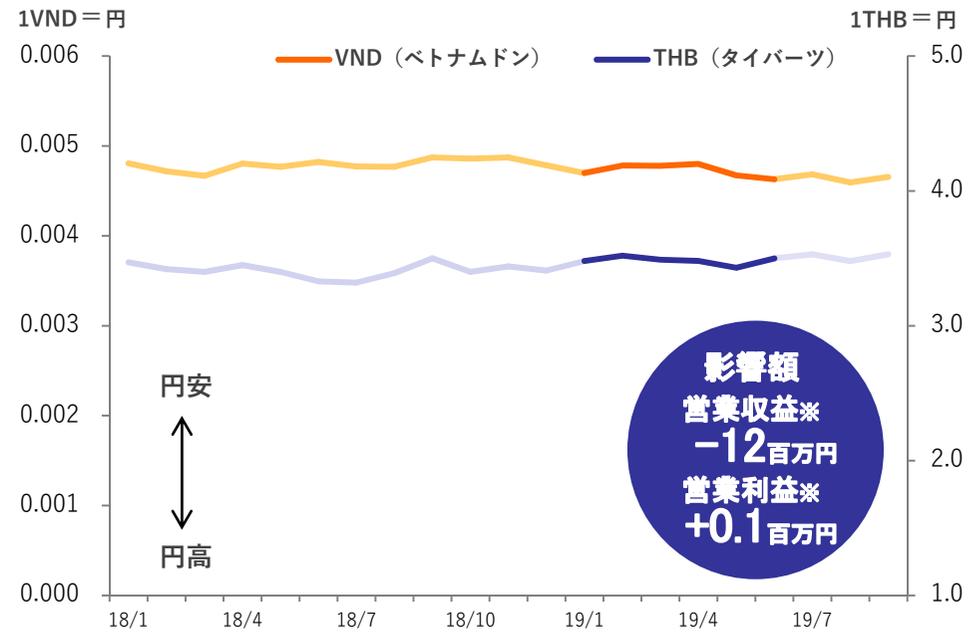
※影響額：軽油平均購入単価の増減×当期使用量

#### 平均購入単価および使用量

主要地域別	19/3期上期	20/3期上期	増減
日本 平均単価（使用量）	102.0円 (2.0百万ℓ)	97.9円 (2.1百万ℓ)	-4.1円
ベトナム 平均単価（使用量）	15,541 VND (1.9百万ℓ)	15,044 VND (1.7百万ℓ)	-497 VND

### 為替レートの推移

各月末時点の為替レート



※影響額：海外各社の当期実績（現地通貨、連結調整後）×当期と前期の為替レート差

#### 平均為替レート比較

主要為替レート	19/3期上期	20/3期上期	増減
ベトナムドン（VND）	1VND= 0.00476円	1VND= 0.00473円	-0.00003円
タイバーツ（THB）	1THB= 3.41円	1THB= 3.48円	+0.07円

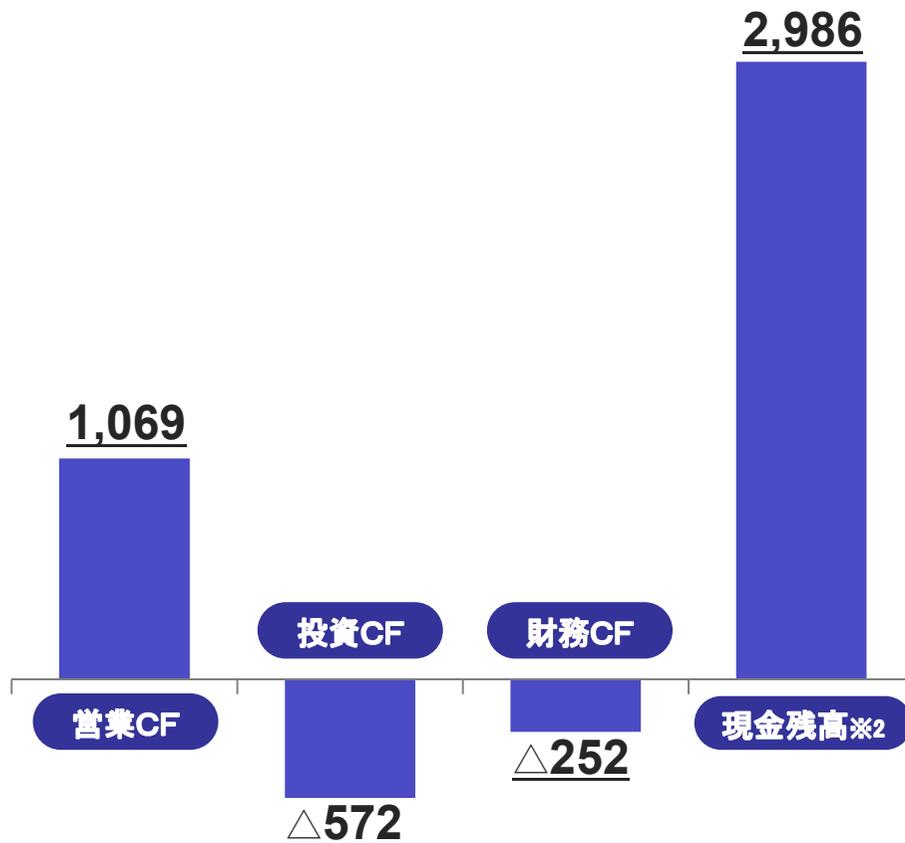


# キャッシュ・フロー

## ベトナム新倉庫建設に伴い固定資産を取得

20/3期上期キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



### 主なキャッシュの増減要因

営業CF	「税金等調整前四半期純利益」の増加
投資CF	「有形固定資産の取得」による支出
財務CF	「長期借入金の返済」による支出

### (参考)キャッシュ・フロー比較

	19/3期上期	20/3期上期	増減
営業CF	389	1,069	+680
(減価償却費)	(862)	(847)	(-15)
投資CF	△970	△572	397
財務CF	111	△252	-363
換算差額※1	△56	△39	+17
現金残高※2	2,639	2,986	+347

※1 現金及び現金同等物に係る換算差額

※2 現金及び現金同等物の期末残高



# 設備投資の状況

## ベトナム新倉庫建設、自動仕分け搬送システムの導入等を実施

### 設備投資の推移

※各社設備投資状況（有形固定資産、グループ間取引含む）

（単位：百万円）

	18/3期	19/3期	20/3期 上期実績	主な内容
建物・構築物	273	244	509	ベトナム新倉庫、国内倉庫空調設備等
機械装置・運搬具	356	449	416	事業用車両、自動仕分け搬送システム、フォークリフト等
工具・器具・備品	229	53	23	
リース資産	437	539	410	事業用車両リース等
建設仮勘定	14	75	△56	
合計	1,311	1,362	1,304	
※( )は地域別計 上段：日本、下段：海外	(1,090) (221)	(1,009) (353)	(966) (338)	

20/3期は  
31億円程度  
を予定



1. 2020年3月期 第2四半期決算の実績
2. 2020年3月期 通期の見通し
3. 今後の取り組み



# 2020年3月期 通期の見通し

## 取り巻く経営環境を勘案し、期初予想を据え置き

(単位：百万円)

	19/3期 実績	20/3期 予想 (5月15日公表値)	増減額	増減率
営業収益	49,395	52,500	+3,104	+6.3%
営業利益 (同利益率)	415 (0.8%)	800 (1.5%)	+384	+92.5%
経常利益 (同利益率)	448 (0.9%)	700 (1.3%)	+251	+56.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (同利益率)	79 (0.2%)	250 (0.5%)	+170	+215.8%
1株あたり当期純利益	57.86円	182.69円	—	—
配当金	80円	80円	—	—



# 営業収益の見通し(事業の種類別)

センター事業の拡大が牽引、全ての事業で増収を予想

(単位：百万円)

	19/3期 実績	20/3期 予想	増減額	増減率	備考
貨物自動車 運送事業	21,699	22,600	+900	+4.1%	日本ロジテム +3億円 国内子会社 +2.6億円 ベトナムG +2.7億円
センター事業	10,573	11,900	+1,326	+12.5%	日本ロジテム +10億円 ベトナムG +1.8億円 ほか海外子会社 +1.7億円
アセット事業	11,199	11,400	+200	+1.8%	日本ロジテム +3.1億円 ベトナムG -1.2億円
その他事業	5,922	6,600	+677	+11.4%	国内子会社 +2.5億円 ベトナムG +2.8億円
営業収益計	49,395	52,500	+3,104	+6.3%	



# 営業収益の見通し(所在地別)

国内は引き続き拡大基調にあり、全体収益を牽引

(単位：百万円)

	19/3期 実績	20/3期 予想	増減額	増減率	備考
<b>日本</b>	41,889	<b>44,200</b>	+2,310	+5.5%	日本ロジテム +17.9億円
(構成比)	84.8%	<b>84.2%</b>			国内子会社 +5.1億円
<b>海外</b>	7,506	<b>8,300</b>	+793	+10.6%	ベトナム G +6.1億円
(構成比)	15.2%	<b>15.8%</b>			ほか海外子会社 +1.7億円
<b>営業収益計</b>	49,395	<b>52,500</b>	+3,104	+6.3%	
主要為替レート(TTM) VND(ベトナムドン)	1VND=0.00479円 (1円=209VND)	1VND=0.00479円 (1円=209VND)		—	

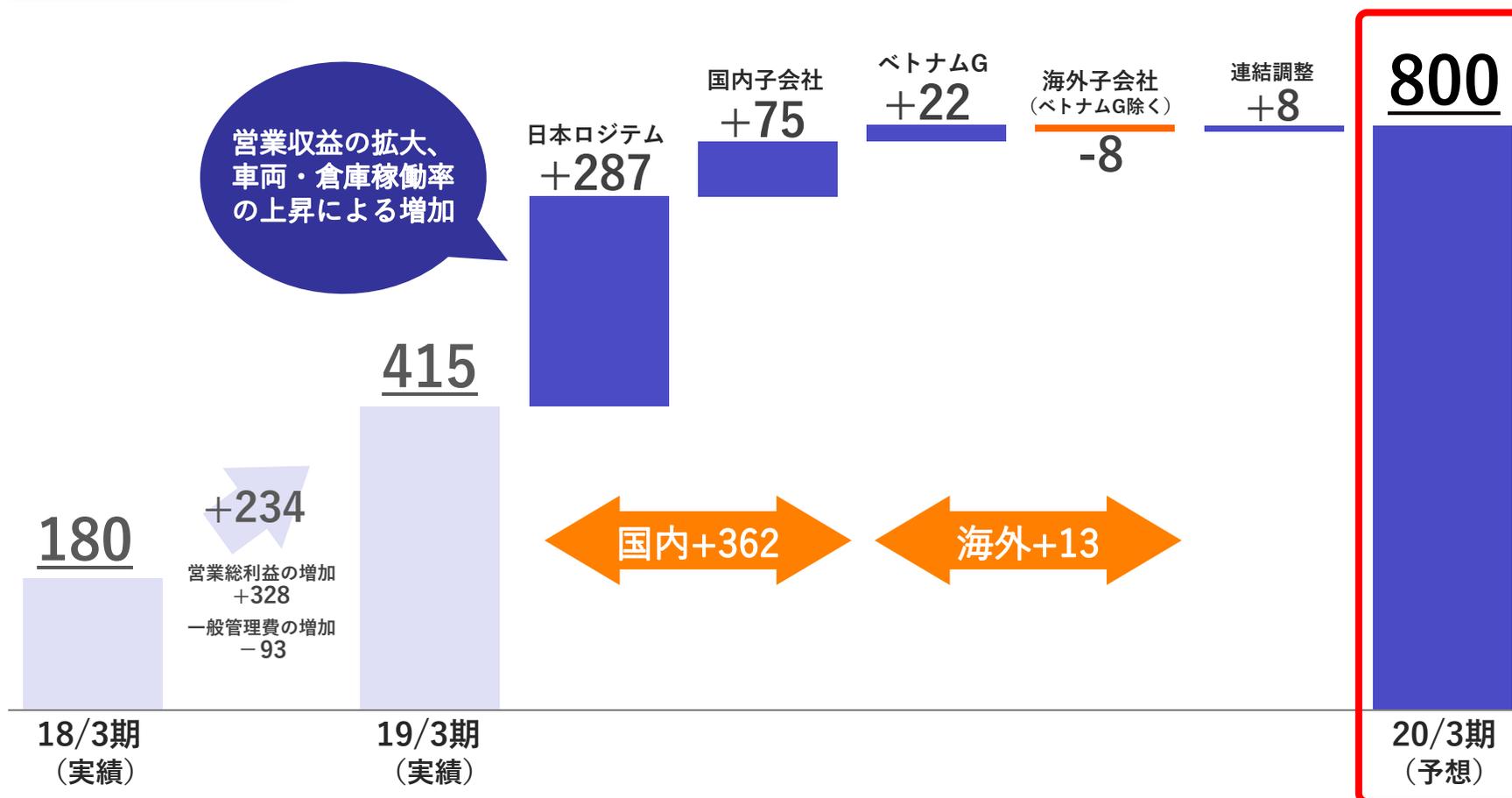


# 営業利益の見通し

## 国内の利益が拡大、海外は前期並みとなる見通し

営業利益

(単位：百万円)





1. 2020年3月期 第2四半期決算の実績
2. 2020年3月期 通期の見通し
3. 今後の取り組み



# 当社グループを取り巻く事業環境

国内

海外

働き方改革  
関連法の施行

通販市場の  
拡大

日系物流企業の  
進出

現地企業との  
価格競争

人手不足の深刻化  
や人件費の上昇

日本ロジテムグループ

人件費の上昇

事業者間の  
競争激化

消費税の増税

消費市場の  
拡大

AEC発足による  
域内経済連携



# 中期経営計画2019（2017年度～2019年度）

## 基本戦略の実行により成長を図る

### ■基本戦略

#### 1. 輸送力の強化

貨物自動車運送事業のサービス力および収益力を改めて強化し当社の強みとする。

#### 2. 成長市場へのシフト

今後の伸びが期待できる分野（業種、サービス）にスピードと柔軟性を持って取り組み、新たな収益の柱を確立する。

#### 3. 国際物流の強化

国内企業や海外の日系・現地企業に対しグループ間連携による包括的な国際物流サービスをコーディネートし提案できる体制を構築する。

### ■数値目標（最終年度目標）

営業収益（連結）

500億円

営業利益（連結）

10億円 利益率2%



# 中期経営計画2019 進捗状況、見通し

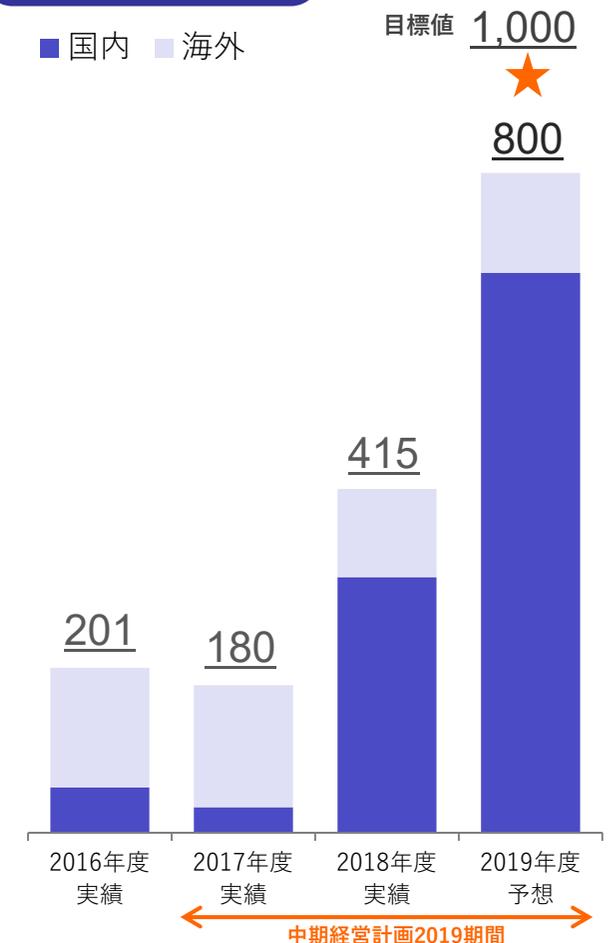
## 売上目標は達成の見通し、利益面も達成を目指す

	中期経営計画2019期間			
	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 予想	2019年度 目標値
営業収益	45,609	49,395	52,500	50,000
営業利益 (同利益率)	180 (0.4%)	415 (0.8%)	800 (1.5%)	1,000 (2.0%)

### 営業利益の推移

■ 国内 ■ 海外

(単位：百万円)



### 中期経営計画2019の数値目標に対する見通し

#### ■ 営業収益

通販物流の拡大等により国内の売上が増加し、達成の見通し

#### ■ 営業利益

国内における大型拠点の稼働安定化、業務の効率化等により利益改善が進んでおり、目標達成を目指す



# 国内の重点施策

## 国内

## 3PL事業の拡大

- ・ 貨物自動車運送事業のサービス力、収益力の向上
- ・ 通販や小売関連など成長が見込まれる分野の事業拡大
- ・ 事業の選択と集中の実行による成長市場へのシフト
- ・ グループ連携によるグローバルな営業開発の推進
- ・ 市場ニーズに応じた営業資産（自社車両、倉庫）の増強
- ・ 環境変化に適応した労働環境の整備と人手不足への対応



# 輸送力の強化

## 貨物自動車運送事業のサービス力、収益力を強化

### 輸送力強化に向けた施策

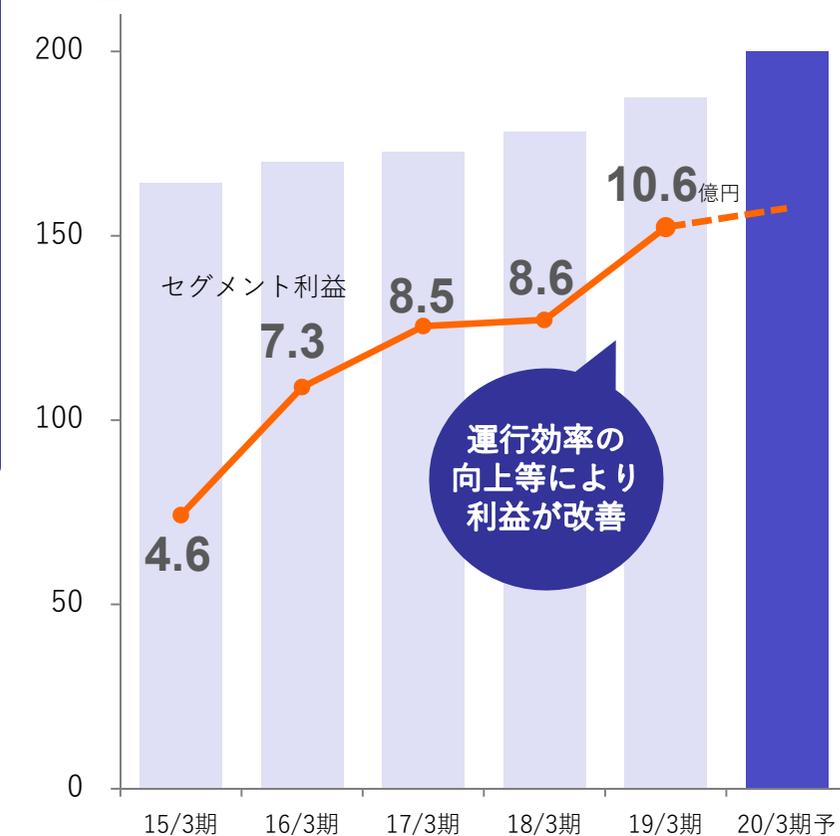
- ・ ニーズに応じて自社車両を増強
- ・ 多様な輸配送ニーズに応える輸送力の構築
- ・ 拠点間連携、自車および協力車の適正配置による車両稼働率の向上
- ・ 輸配送の安全運転レベルの向上
- ・ ドライバーの労働環境整備
- ・ 環境の変化に合わせた適正料金の収受



### 国内運送事業の業績推移

(単位：億円)

営業収益 ※当社および国内連結子会社のセグメント業績





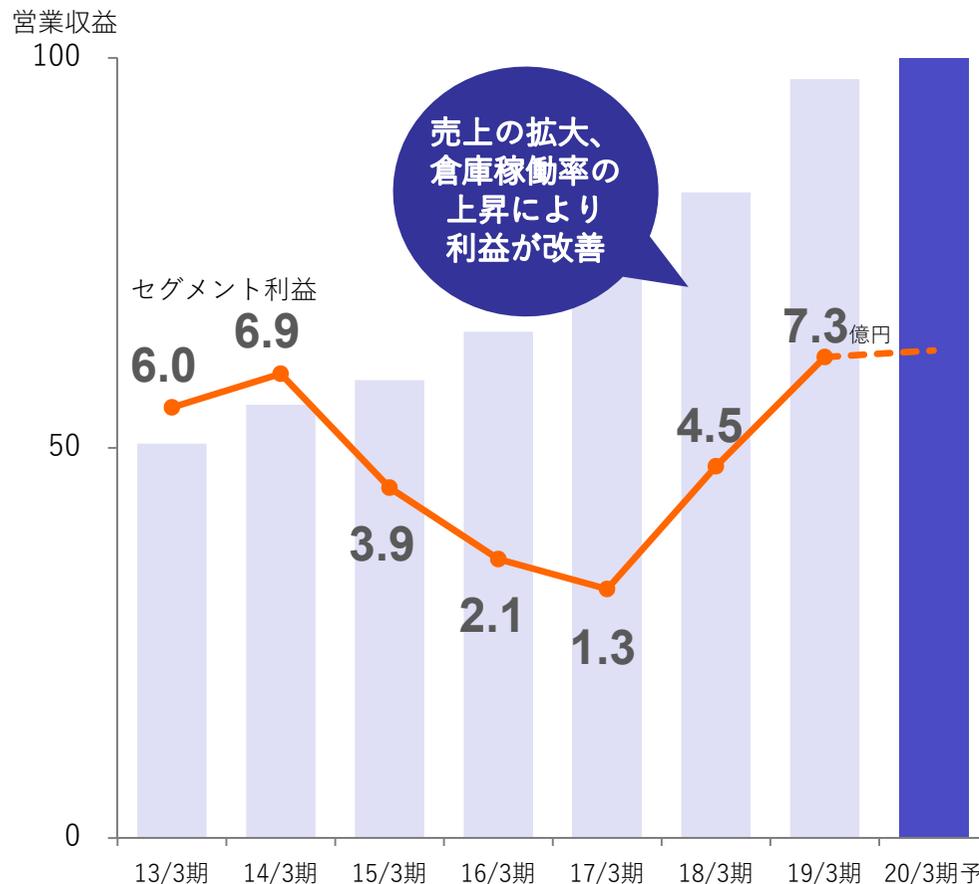
# 国内アセット事業の業績が回復

## 大型拠点の立ち上げ、拠点統廃合が一巡し、稼働が安定化へ

### 国内アセット事業の業績推移

※当社のセグメント業績

(単位：億円)



### 業績向上に向けた施策

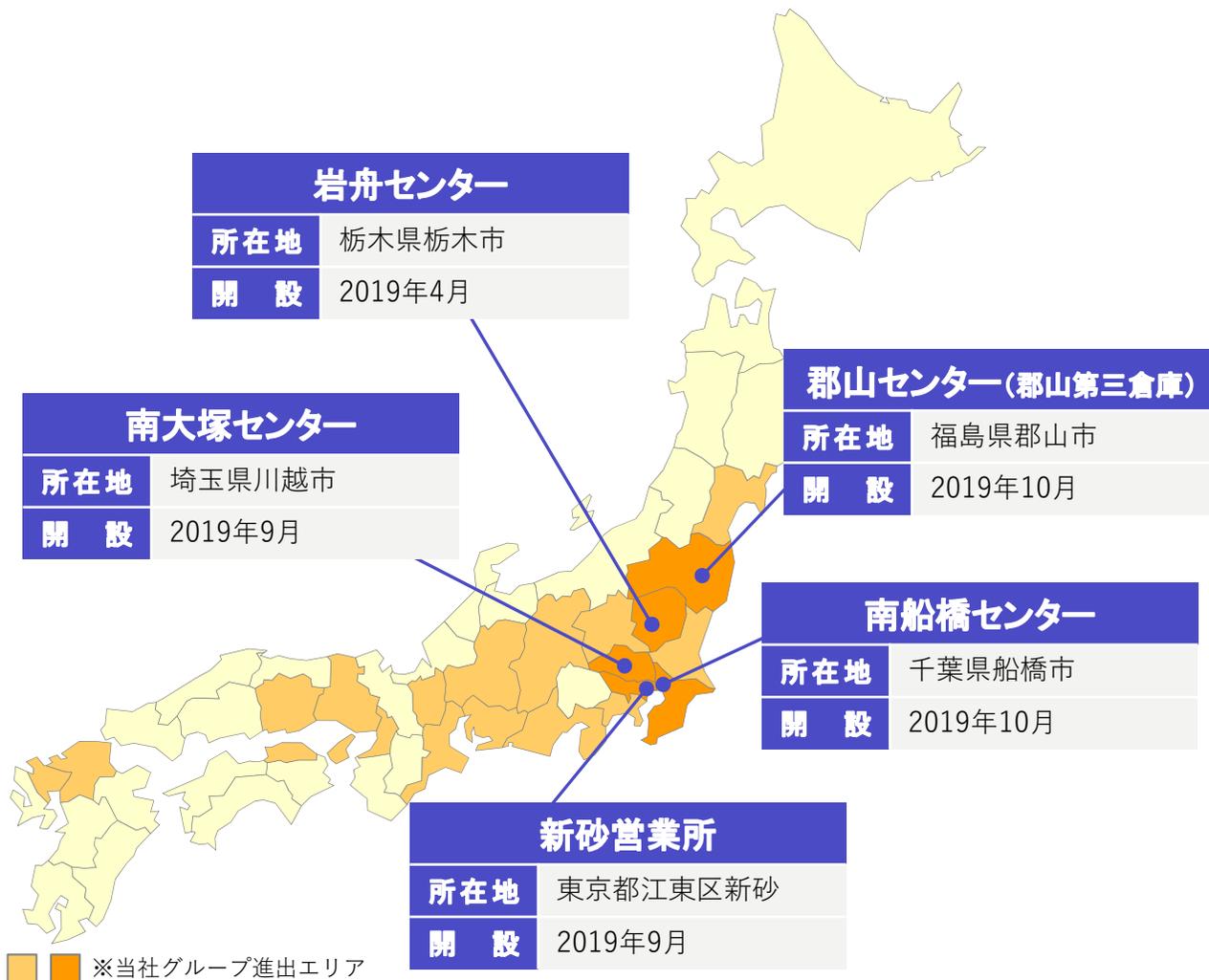
- ・ 保管能力の増加による規模の拡大
- ・ 低採算な拠点の廃止、統廃合
- ・ 既存拠点への貨物誘致の強化
- ・ 保管ニーズの積極的な取り込み
- ・ 保管方法の見直しによる保管効率の向上





# 国内拠点展開の状況

## 3PL事業の拡大に向け拠点を拡充



### 倉庫面積の推移

(単位：千坪)

※当社および国内連結子会社の保有・借用倉庫面積計  
(持分法適用関連会社は除く)





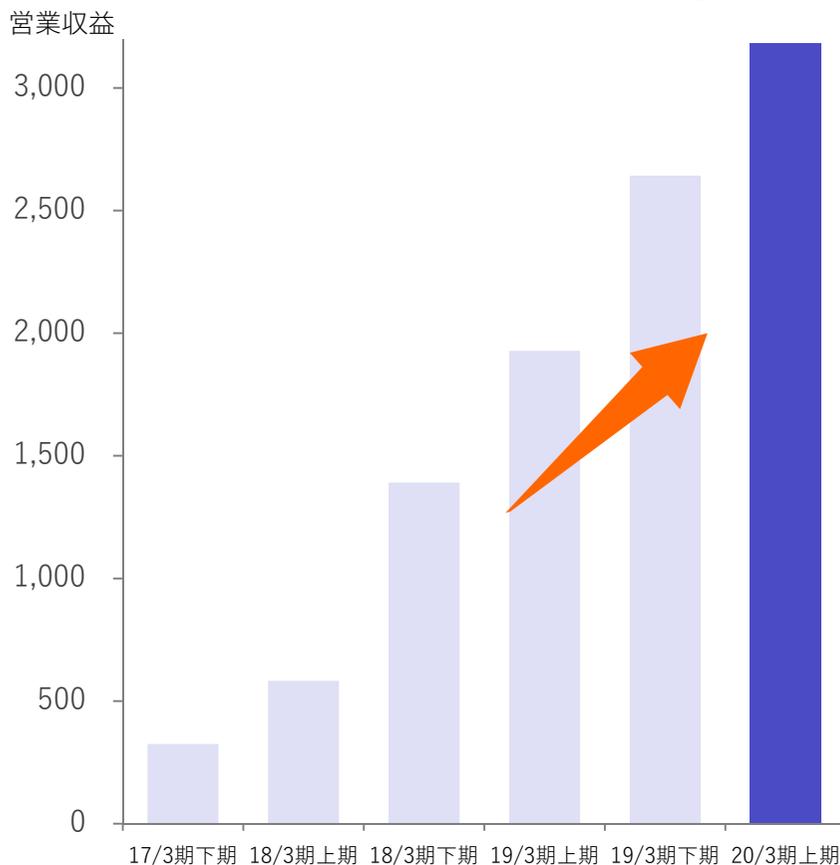
# 通販関連の物流が拡大

引き続き営業活動を推進し、既存拠点での取り扱い拡大を図る

## 通販関連の売上推移(半期別)

※当社における通販関連の得意先売上実績

(単位：百万円)



## 通販関連を取り扱う主な拠点

- 2016年10月 吉見営業所等の既存拠点にて取り扱いが本格化  
※2017年1月 通販営業部新設
- 2017年 9月 高槻センター新設※現高槻営業所
- 2017年10月 稲沢センター新設
- 2018年 5月 厚木西センター新設※現厚木西営業所



高槻営業所  
(大阪府)



稲沢センター  
(愛知県)



厚木西営業所  
(神奈川県)



# 国際物流の強化

グループ連携を強化し、グローバルな物流ニーズの取り込みを推進

海外現地法人  
(ベトナム、タイ他)

各国内での物流事業



大田センター

ロジテム  
インターナショナル

輸出入通関事業

日本ロジテム  
グローバル事業  
部門

グローバル営業開発  
海外事業の管理

## 施策

- ・ 営業戦略部門と国際事業部門を統合し、国際物流案件の開拓に注力
- ・ 国際物流ニーズに幅広く対応できる拠点を新設し、営業体制を強化



# 海外の重点施策

## 海外

## アジア地域の事業展開を加速

- ・ インドシナ半島域内の国際陸上輸送網拡充によるクロスボーダー輸送の拡大
- ・ グループ連携によるグローバルな営業開発の推進
- ・ ベトナム新体制による事業基盤の構築と業績の安定化
- ・ 未進出国や未進出地域における新たな拠点開設の検討
- ・ 各進出国における管理体制の強化
- ・ グループ間の交流による人財育成の強化



# インドシナ半島地域における成長戦略

## 域内国際陸上輸送を成長市場と捉え事業展開を加速

### インドシナ半島地域の動き

#### 経済

- ・ 各国の経済発展
- ・ 直接投資の拡大
- ・ 中間所得層の増加

#### 制度

- ・ 域内の関税撤廃
- ・ AEC(アセアン経済共同体)発足
- ・ CBTA協定(越境交通協定)発効

#### 物流

- ・ 輸送インフラの整備
- ・ 先進国の物流ノウハウの浸透

### 物流市場の変化

- ・ 貨物量の増加
- ・ 貨物の多様化
- ・ 単一市場化
- ・ 貿易の活発化
- ・ トラック輸送の利便性向上
- ・ 物流の高度化、効率化

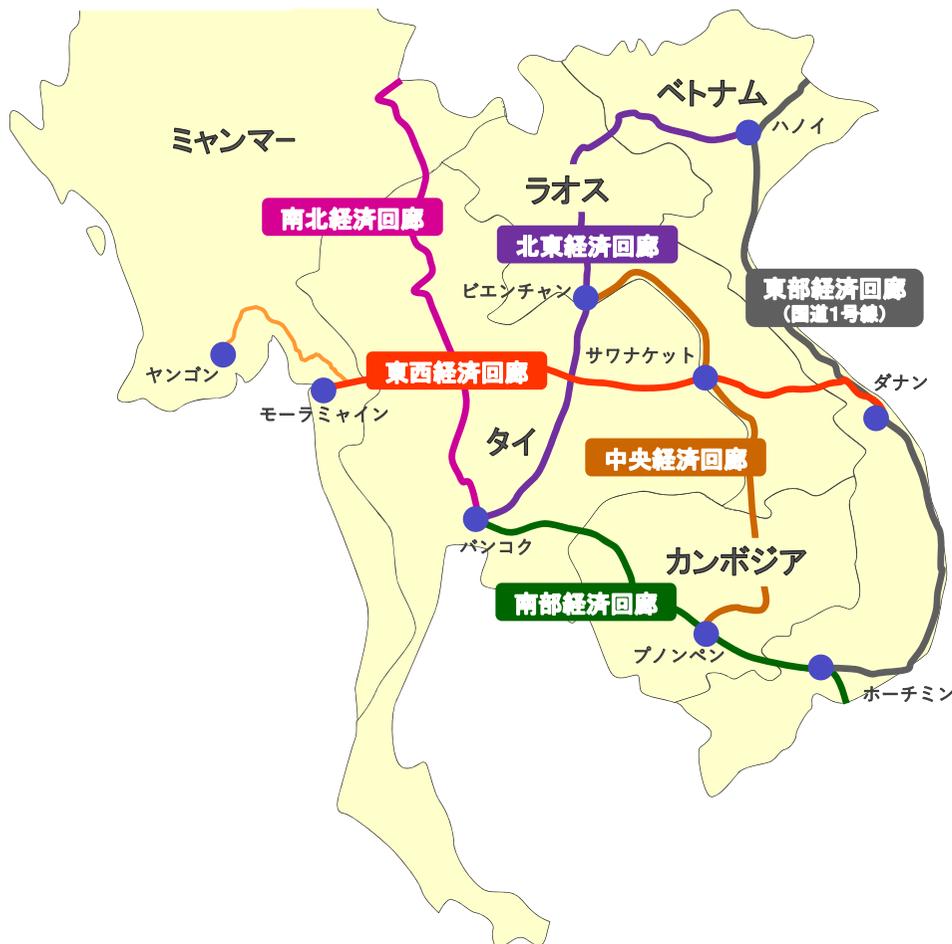
国際陸上輸送  
ニーズの拡大



# インドシナ半島地域における成長戦略

## 道路インフラの整備状況等も踏まえ、各国に進出

### ASEAN経済回廊



### 進出状況

進出国	2000年	2010年	2015年
タイ 	1992年		
ベトナム 	1994年		
ラオス 		2007年	
ミャンマー 			2013年
カンボジア 			2016年

インドシナ半島地域  
5ヶ国に進出し  
事業を展開



# 新たなロジテムベトナムグループ

## 2018年に旅客運送事業および物流事業の組織を再編

### 沿革

- 1994** **ロジテムベトナムNO1、NO2設立**  
4月にベトナム国家投資協力委員会との合併によりロジテムベトナムを設立し、5月にロジテムベトナムNO1（旅客自動車運送事業）とロジテムベトナムNO2（貨物自動車運送事業）に分社
- 2003** **L & K トレーディング設立**  
輸出入商品売買業等を目的として6月に設立
- 2006** **ロジテムベトナムコーポレーション設立**  
物流事業の営業強化を目的として6月に設立
- 2008** **ロジテムベトナムホールディングス設立**  
グループ経営体制の強化を目的として11月に設立
- 2012** **ロジテムベトナムトレーディング設立**  
輸出入・卸売機能の強化を目的として11月に設立
- 2015** **CLKコールドストレージ設立**  
冷凍冷蔵倉庫運営を目的として、4月に川崎汽船株式会社と株式会社海外需要開拓支援機構との共同出資により設立
- 2017** **ロジテムベトナムノースサービス、サウスサービス設立**  
旅客自動車運送事業の強化を目的として、11月に北部にロジテムベトナムノースサービスを設立、12月に南部にロジテムベトナムサウスサービスを設立
- 2018** **ロジテムベトナムNO1、NO2合併契約の終了**  
3月にロジテムベトナムNO1が営業を終了、6月にロジテムベトナムNO2が営業を終了し、合併契約を終了

### ロジテムベトナムグループ



● 議決権所有割合、無印は100%  
※ 持分法適用関連会社



# ロジテムベトナムグループの重点施策

## 進出25周年を迎え、新たな体制により一層の成長を目指す

### 事業別の施策

#### 旅客運送事業

- ・新体制による営業強化と安定利益の追求
- ・人財育成、管理体制強化による高品質なサービスの提供
- ・新たなサービスによるハイヤー稼働率の向上



#### 物流事業

- ・営業体制の整備と安定利益の追求
- ・冷凍冷蔵貨物を含む食品物流の拡大
- ・拠点の拡充による輸送網の整備



#### 卸売・小売事業

- ・冷凍品を中心とした輸入販売の拡大
- ・店舗運営の再構築による収益性の改善
- ・物流事業との連携強化





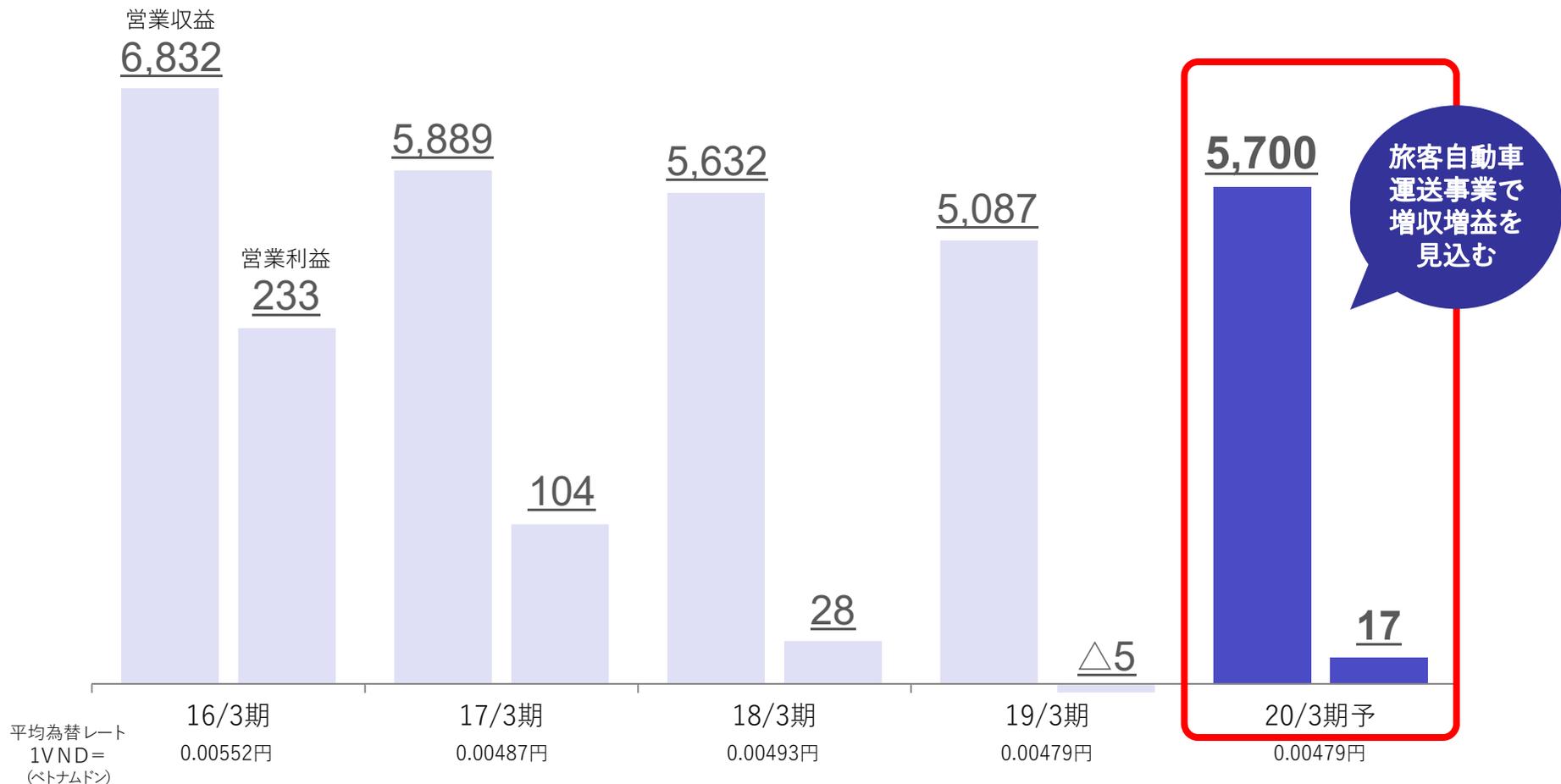
# ロジテムベトナムグループの業績推移

競争激化もあり収益環境は厳しいが、業績は改善の見通し

## 業績の推移

※ロジテムベトナムグループ連結数値

(単位：百万円)





# ベトナム、物流事業の拠点を新設

## ベトナム中部ダナンに自社倉庫を建設し稼働を開始



ホーチミン支店新倉庫	
所在地	ビンズン省
延床面積	約14,000㎡
構造	高床式地上2階建て
開設	2020年3月(予定)

ダナンロジスティクスセンター	
所在地	ダナン市
延床面積	10,280㎡
構造	高床式平屋建て
開設	2019年4月





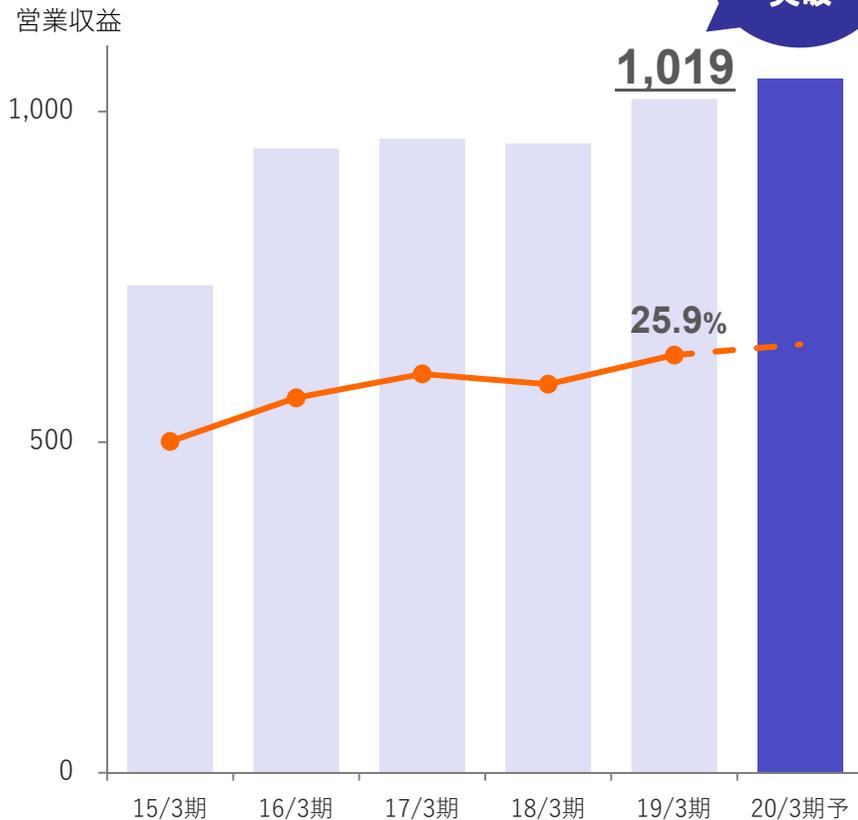
# ベトナム、食品物流の拡大

## 食品物流が拡大、冷凍冷蔵倉庫事業も堅調に推移

### 営業収益(食品物流)

(単位：百万円)

※ベトナムの物流事業における食品関連の得意先の売上高  
および売上高（単純合算）に占める割合



### 業務内容(食品物流)

#### 物流業務

- ・ 配送センター内での入出庫、保管、在庫管理
- ・ クロスドック輸送、工場間輸送、エリア配送
- ・ 冷凍冷蔵倉庫運営



#### 物流関連業務

- ・ 工場構内業務請負（24時間体制）
- ・ 輸出通関代行
- ・ 食品卸売

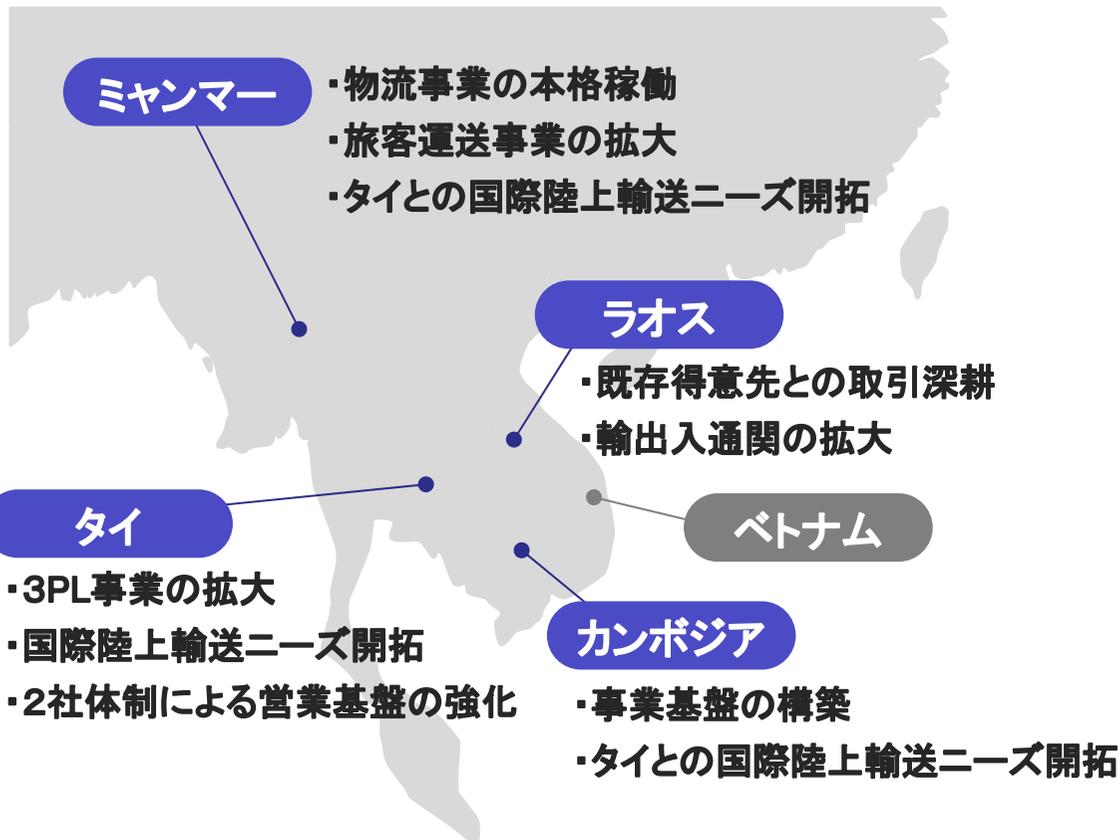




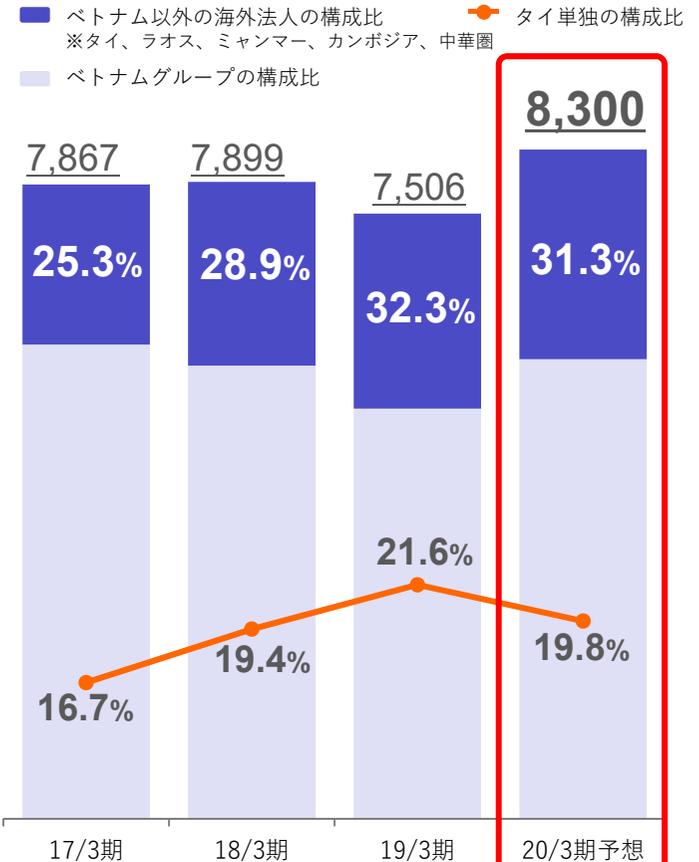
# インドシナ半島地域各社の重点施策

## 域内のネットワーク構築を見据え、各国で事業拡大に取り組む

### 重点施策



### 海外所在地別の売上構成比



※ 海外所在地別の売上構成比（グループ間取引調整後）



# 資本政策について(配当)

## 基本方針

## 安定配当の継続

株主の皆様に対する安定した配当の継続を経営の最重要課題の一つとして位置付けており、業績の進展状況や配当性向等を勘案し、利益配分に積極的に取り組んでいく方針です。

### <1株あたり年間配当額の推移>

	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期 (予想)
第2四半期末	4.00円	4.00円	4.00円	4.00円	40.00円	40.00円
期末	4.00円	4.00円	4.00円	40.00円	40.00円	40.00円
年間	8.00円	8.00円	8.00円	—	80.00円	80.00円
配当性向(連結)	—	241.2%	23.6%	56.8%	138.3%	43.8%

※2017年10月1日付で株式併合を行っております。2018年3月期の1株あたり期末配当金については、当該株式併合後の1株あたり配当金額を記載しており、年間1株あたり配当金合計は「-」としております。



# 【参考資料】当社グループの概要①

## 日本ロジテムグループ体制

(2019年4月1日時点)

### 日本ロジテム (貨物運送、倉庫、グループ統括) (関東・中部・南東北)

#### 日本

##### サービス別

- ロジテムエージェンシー  
(業務請負、人材派遣)
- ロジテムエンジニアリング  
(施工、建設)
- ロジテムインターナショナル  
(通関、港湾運送)
- ロジスメイト ※  
(物流コンサルタント)

##### 運送品目別

- ロジテムトランスポート  
(バルク運送)
- ロジテム軽貨便  
(軽貨物運送)

##### 地域別

- 阪神ロジテム  
(貨物運送、倉庫) (近畿・中国・四国)
- 阪神ロジサポート  
(業務請負、軽貨物運送) (近畿)
- 福岡ロジテム ※  
(貨物運送、倉庫) (九州)

#### 海外

##### ベトナム

- LOGITEM VIETNAM HOLDING  
(ベトナムグループ統括、リース、投融資)
- LOGITEM VIETNAM CORP  
(貨物運送、倉庫)
- LOGITEM VIETNAM NORTH SERVICE  
(旅客運送) (ハノイ市)
- LOGITEM VIETNAM SOUTH SERVICE  
(旅客運送) (ホーチミン市)
- LOGITEM VIETNAM TRADING  
(貿易代行、卸売)
- L&K TRADING  
(物品販売)
- CLK COLD STORAGE ※  
(冷凍冷蔵倉庫)

##### タイ

- LOGITEM (THAILAND)  
(貨物運送、倉庫、通関)
- LOGITEM TRADING (THAILAND)  
(卸売、業務請負)

##### ほかインドシナ半島地域

- LOGITEM LAOS GLKP  
(通関、倉庫、貨物運送) (ラオス)
- LOGITEM MYANMAR  
(旅客運送、貨物運送、通関) (ミャンマー)
- LOGITEM (CAMBODIA)  
(旅客運送、貨物運送) (カンボジア)

##### 中華圏

- LOGITEM HONG KONG  
(通関、倉庫、貨物運送) (香港)
- LOGITEM TAIWAN  
(倉庫、貨物運送、貿易代行) (台湾)
- LOGITEM SHANGHAI  
(通関、倉庫、貨物運送) (上海)

清算手続き中の法人を除く ( ) は、主な事業・エリア等 ※持分法適用関連会社



## 【参考資料】 当社グループの概要② 特徴、強み（エリア展開）

### 首都圏およびインドシナ半島地域を中心に展開



- ・国内最大の消費地である首都圏を中心に拠点を拡充
- ・物流ニーズに応じた拠点展開を図り、南東北から九州エリアをカバー
- ・いち早く進出したベトナムをはじめインドシナ半島地域に特化したエリア展開



# 【参考資料】 当社グループの概要③

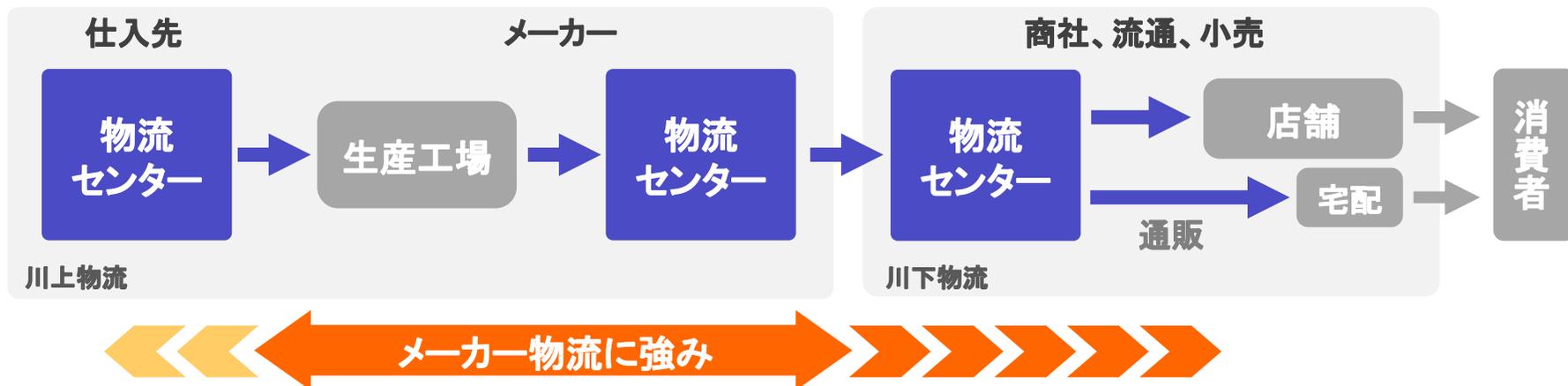
## 特徴、強み（物流サービス）

### メーカー物流を基盤としながら、幅広いサービスを提供

サプライチェーン(概略図)

→ トラック等による運送(宅配除く)

■ 入在庫、保管、荷役、在庫管理、流通加工等



- ・メーカー物流を主体に3PL(トラック運送、倉庫、流通加工など)サービスを提供
- ・食品、インテリアなど衣食住商品メーカー関連の物流ノウハウ
- ・様々なニーズに対応可能なマルチテナント型の倉庫を拡大
- ・工場内作業請負、施工、販売、引越など物流周辺事業を充実
- ・ベトナムにおける事業範囲の広さ(物流、旅客自動車運送、卸売小売など)



# 【参考資料】 当社グループの概要④

## セグメント別構成比

### 事業の種類別セグメント

#### 貨物自動車運送事業

トラックなどを使用して貨物を運送する事業

#### センター事業

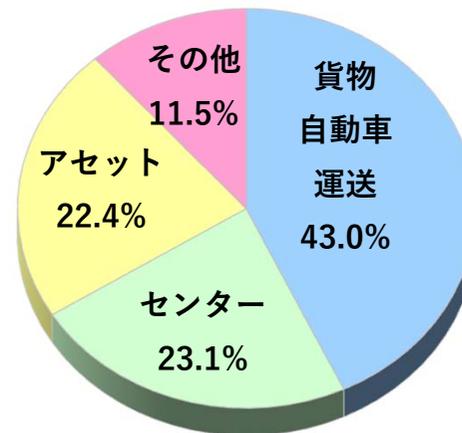
貨物の入出庫などの荷役、流通加工、事務代行を行う事業

#### アセット事業

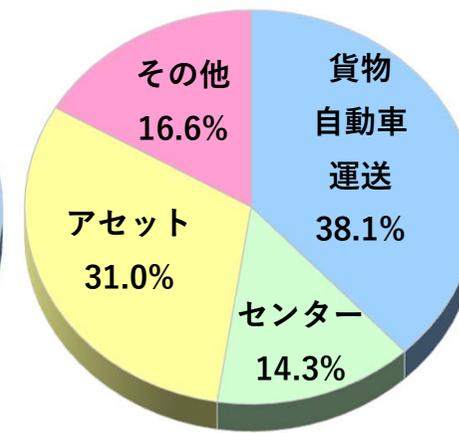
貨物の保管、不動産賃貸借および仲介を行う事業

#### その他事業

引越、施工関連、輸出入通関、旅客自動車運送等の物流周辺事業



連結売上高



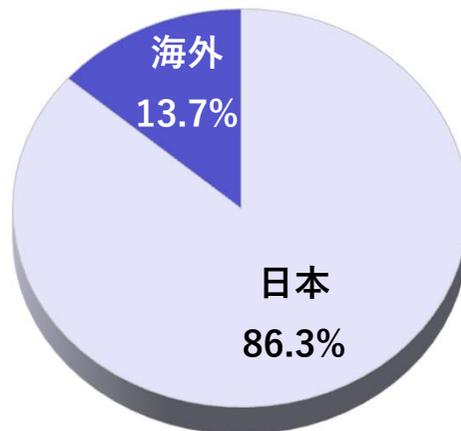
セグメント利益

### 所在地別セグメント

日本

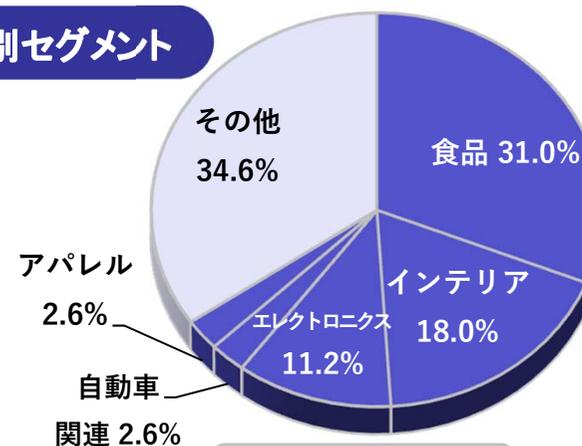
海外

ベトナム、中華圏、タイ、ラオス、ミャンマー、カンボジア



連結売上高

### 品目別セグメント



連結売上高

(20年3月期第2四半期データ)



# 【参考資料】 当社グループの概要⑤

## 従業員数、輸送能力、保管能力



	国内	増減	海外	増減	グループ計	増減	
従業員数	1,400人	+52人	2,316人	+5人	3,716人	+57人	
輸送能力	貨物自動車	392両	+10両	568両	-28両	960両	-18両
	旅客自動車	—		604両	+16両	604両	+16両
保管能力	219,903坪	-148坪	66,481坪	-350坪	286,384坪	-499坪	

(20年3月期第2四半期データ、増減は19年3月期末比較)



# 日本一信頼される企業グループを目指す

保管、荷役、流通加工、情報システム、3PLへと進化するロジスティクス業界





- 本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- 当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。



## IRに関するお問合せ先

日本ロジテム株式会社 総合企画部 総合企画課

東京都港区新橋5-11-3

TEL: 03-3433-6711

物流センター・物流アウトソーシングなら

**物流相談.com**

<http://www.b-soudan.com>